



秋田県立男鹿工業高等学校

中期ビジョン（5か年計画）



本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

1 学校の現状や課題

本校は昭和56年に開校し、令和3年に創立40周年を迎えた。現在は機械科、電気電子科、設備システム科の3学科体制で、「創意実践」の校訓のもと、地域に貢献する技術者の育成を目指している。本校の現状や課題としては、次のようなことが挙げられる。

(1) 入学者数について

入学者定員に対する充足率は、令和3年度に7割を割り込んだが、令和4年度は9割を超えた。特にここ2年低迷していた電気電子科の充足率（令和3年度42.9%→4年度94.3%）が回復したことが大きい。

近年の定員充足率

	入学者数	充足率
元年度	95	90.5%
2年度	78	74.3%
3年度	73	69.5%
4年度	97	92.4%

(2) 卒業生の進路について

令和3年度卒業生（93名）の進路達成率は100%、うち就職は74.2%、進学が25.8%であった。就職の内訳は県内が71.2%、県外が28.8%であった。進学の内訳は4年制大学が34.8%、短大が17.4%、専門学校が47.8%であり、国公立大学に2名が進学した。

定員は1学年計105名

(3) 部活動について

本校の空手道部は男女とも全国大会出場経験が豊富である。花園での全国大会に4度出場を果たしているラグビー部は、令和2年度に18年ぶりに県予選で決勝に進出する活躍を見せた。しかし、本校の部活動は近年、加入率が低下しており、入学者の減少と相まって部員不足に悩む部も見られるようになった。令和3年度は、コロナ禍の影響からか部活動加入率は低く67.2%に止まった。しかし、令和4年度では、新入生の85.6%が加入し全学年平均では77.6%まで回復している。

(4) 資格取得等について

生徒は企業で求められる資格試験や検定試験に積極的に挑戦している。令和3年度は危険物取扱者乙種4類の合格率が県平均32.5%を下回る28.8%であった。令和2年度の合格率52.7%から大幅に低下したが、検定問題の大幅な変更に対応できなかったことが原因と分析しており、令和4年度の挽回を生徒、教員ともに目指している。

(5) 地域との連携について

毎年、近隣の小学校や特別支援学校を対象にしたものづくり教室や出前授業を実施しているが、現状では地域社会との連携機会はあまり多くはない。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

(1) 男鹿海洋高校との統合

第七次秋田県高等学校総合整備計画の後期計画において、本校は男鹿海洋高校と統合し、地域に根ざした特色ある教育活動を通して、地域産業に貢献できる人材育成を目指す学校となることが示されている。現在、後期計画期間中の開校に向けて具体の検討が進められている。

(2) 少子化の進行

男鹿潟上南秋地区内の中学校卒業生数は、令和2年3月の627人から令和7年3月には466人、さらに令和12年3月には410人へと減少する見込みである。また、秋田市内の中学校卒業生数も確実に減少することが予測されていることから、入学者の

確保は年々厳しさを増すことが予想される。

(3) 中学生の秋田市内志向

令和2年度から私立高校の授業料が実質無償化され、秋田市及びその近隣在住の中学生が秋田市内の私立高校に進学しやすくなった。また、令和3年3月のJR泉外旭川駅の開業によって、JR男鹿線沿線からの秋田市内への通学の利便性が向上した。これらは、中学生の進学先選択の際の秋田市内志向を今まで以上に高め、本校の入学者確保にとっては逆風となる可能性がある。

(4) 県内高校生の進路動向の変化

令和3年度の県内高校卒業生の県内就職率が79.8%と、過去最高となった令和2年度に引き続き上昇している。新型コロナウイルスの影響も指摘されているが、県や秋田労働局等の各種取組の成果が大きい。この傾向は今後も続くことが予想されるが、県内就職希望者が多い本校は、他校の県内就職希望者との競争がさらに厳しい状況となることが想定される。

(5) 本県沖での洋上風力発電事業

「再エネ海域利用法」に基づき、事業化に向けた手続きが本県沖の各海域で進んでおり、「能代市、三種町及び男鹿市沖」では令和3年秋に事業者が決定した。今後、この事業に伴う雇用の創出等が期待される。

3 目指す生徒像及び学校像

(1) 目指す生徒像

- ① 部活動やものづくりコンテスト、資格試験・検定試験等に積極的に挑戦する生徒
- ② 基礎的な学力と専門的な知識・技術を身に付け、新時代の産業を担う幅広い視野と柔軟な発想をもつ生徒
- ③ 自ら学び続ける意欲と課題解決に主体的・協働的に粘り強く取り組む態度を身に付けた生徒
- ④ ふるさとを愛し、地域社会と産業の活性化に貢献する意欲をもつ生徒

(2) 目指す学校像

- ① チャレンジ精神旺盛な生徒が切磋琢磨する活力にあふれた学校
- ② 学んだ技術・技能を生かして地域の活性化に貢献できる人材を育成する学校
- ③ 男鹿地域の資源や教育資産を活用しながら、探究的な学習活動を通して、専門的かつ高度な知識・技術を身に付けさせる学校
- ④ 思考力、表現力、幅広く柔軟なものの見方・考え方等、課題解決のための実践的な力を育成する学校

※上記②～④は、第七次秋田県高等学校総合整備計画の後期計画で男鹿海洋高校と本校の統合校について記された文章を基にしている。

4 5年間を通しての具体的目標

(1) 入学者数について

最近2年の定員充足率の平均は81.0%である。少子化が進む中での定員確保は容易ではないと思われるが、令和5年度以降も90名（定員充足率85.7%）以上の入学者確保を目指す。

(2) 卒業生の進路について

就職・進学を合わせた進路決定率100%を継続するとともに、県内就職率75%以上、毎年1名以上の国公立大学合格を目指す。

(3) 部活動等について

部活動の加入率を80%以上とし、部活動の活性化を図る。また、部活動及び各種ものづくりコンテストで毎年1団体および1名以上の全国大会出場を目指す。

(4) 資格取得等について

各種資格試験・検定試験の受験者を増やすとともに、合格率の維持・向上を目指す。

具体的な取組等

本校が目指す5年後の姿の実現に向けて、次のことに取り組んでいく。

- (1) 学力向上のための授業改善
 - ① 生徒の学習意欲を高め、基礎的な学力の定着を図るために、「学び直し」の取組を推進する。
 - ② ICT機器の活用について、授業の相互参観を通して実践を共有し、より効果的な活用方法の研究を推進する。
 - ③ 実施するクラスと日時が教科担任に任されていた授業アンケートを、一人一台端末を利用して全校一斉・全教科で年2回実施する方式に改め、組織としての課題を定期的に把握し、授業改善を推進する。
- (2) 個に応じた進路指導体制の充実
 - ① 令和3年度に初めて配置された就職支援員の協力を得ながら、同窓会、PTA、地元企業等と連携した就職支援体制の強化・充実を図る。
 - ② 進路志望調査や面談等を通して進学希望者の掘り起こしを行い、入学に求められる学力等を身に付けるための指導を組織的に行う進学支援体制を確立する。
 - ③ 資格取得等を推進するための校内指導体制の強化・充実を図る。
- (3) 教育・研究機関や企業等との連携
 - ① 大学や地域企業等との連携による授業や実践的なものづくり、就業体験等の更なる充実を図る。
 - ② 地域産業や地域企業に対する生徒、保護者及び教員の理解を深める活動を充実させる。
 - ③ 洋上風力発電関連産業等、高い技術力をもつ企業と連携して、より実践的なカリキュラムの開発を推進する。
- (4) 地域社会との交流
 - ① 近隣の小学校や特別支援学校を対象にしたものづくり教室や出前授業の参加者が増えるよう内容と周知方法を工夫する。
 - ② 地域社会において専門性を生かしたボランティア活動を実施する。
- (5) 学校情報の積極的な発信
 - ① 主に男鹿市・潟上市の中学校の教員や保護者を対象に工業の公開授業等を実施し、本校及び工業科に対する理解を深めてもらう。
 - ② ホームページを有効活用し、学校の情報を積極的に発信する。
- (6) 男鹿海洋高校との交流
 - ① 統合に向けて、生徒会活動等で交流する機会を増やす。
 - ② 両校合同で課題研究発表会を実施し、相互理解を深めるとともに、地域住民や企業関係者等にも学習成果を披露し、両校の存在をアピールする。

令和4年5月2日策定